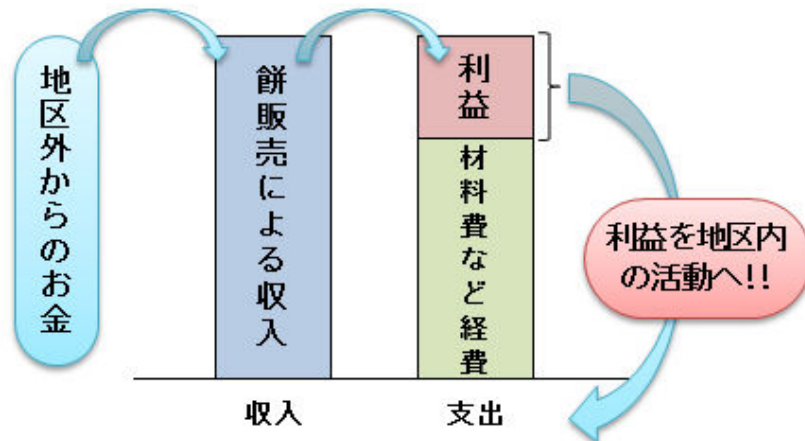


2. 利益のゆくえ

【餅つき事業の収支状況について】



様々な地域づくり活動の資金として充てることができる!!

《活動の例》

- ため池の草刈や河川の管理などの環境保全活動の実施
- 案内看板の作成及び設置
- 広報誌やホームページの作成
- 地域で管理している公衆トイレの維持管理
- 地区内にあるグループホームへの車いすの寄付
- 餅製造に必要な備品や機械の購入 など



【写真】案内看板の作成及び設置



【写真】イベントでの餅つきの様子

3. 取組のまとめ

☞ 地区外の資金を確保し、地区内の活動へと活用できている。

- ・地区外でのお祭りやショッピングモールで餅つき販売を行い、地区外からの資金（外貨）を獲得し、その資金を用いて様々な事業を実施しており、地区内からの資金を持ち出すことなく活動ができている。

☞ 都市住民のリピーターが付き、地域の自信につながった。

- ・地区外での販売を続けていくうちに、買うなら中須の餅じゃないとダメだといった都市住民のリピーターが商品を多く買ってくれるようになり、自分たちの作ったものが売れることで、もっと頑張ろうという地域のやる気につながっている。

☞ 手伝いの場が交流の場へと活用されている。

- ・餅つきの準備作業が単なる手伝いの場としてだけでなく、高齢者が集まることのできる格好の場となっており、友人とおしゃべりによって元気になって帰っていくなど新たな効果を生み出している。

○拠点施設建設に向けた資金調達の方法

渋川をよくする会

(周南市鹿野渋川地区)

人口	97人
世帯数	52世帯
高齢化率	72.1%
集落数	3

H27.1.31 現在

渋川地区では、都市住民との交流や女性を中心とした加工品の製造など自らの手で地域を良くしようと活動に取り組んでいます。活動を進める中で、休校となっていた渋川小学校を地区住民のコミュニティ活動の場や都市住民との交流拠点、老朽化していた加工施設へと活用できないか考えていました。

しかしながら、予想以上に小学校校舎の老朽化が進んでおり、利用が困難だったため、新たな拠点施設（渋川ふれあいの家）を建設することになりました。

1. 取組事業

課題 高額な建設費をどう確保するか。

☞ 建築費の見積りを取ったところ、約2,100万円が必要となることが判明した。

① 山口県の補助事業を活用することで自己負担分を減らした。

- ▶ 周南市に相談し、山口県の補助金を活用することで自己負担を1/3に軽減できた。
(山口県が1/3、周南市が1/3、各々補助金として交付)

② 原材料及び労務提供の申出が地区内からあった。

- ▶ 新しい建物で使用する柱や板材などの木材について、地区住民が自ら所有する山から無償の提供が行われ、材料費を削減できた。
- ▶ 地区住民がボランティアで建設作業の手伝い（例：セメント張り・水道敷設用の溝掘り・外壁の防腐剤塗りなど）を行うことで人件費分を削減できた。

③ 学校林として使っていた山の木材を売却し、建設費へ充てた。

- ▶ 小学校の学校林として使用していた山（地域が共有して管理）が植林後50～60年経過し、切り出しの時期を迎えていた。
- ▶ 売ればどれぐらいの金額になるか業者に見積りを依頼。見積りの結果、利益は出ないと言われたが、諦めずに別の業者に見積り依頼をしたところ、200万程度の利益が出るとの試算が出たことから、伐採を行うこととなった。
- ▶ 地区住民が手入れを行ってきた学校林を伐採し、材木を売却することについて同意を取るため、地区出身者の総会を開催。多くの人々の了承を得て伐採を決定。必要経費などを差し引き、約120万円を確保することができ、建設費へ充てた。

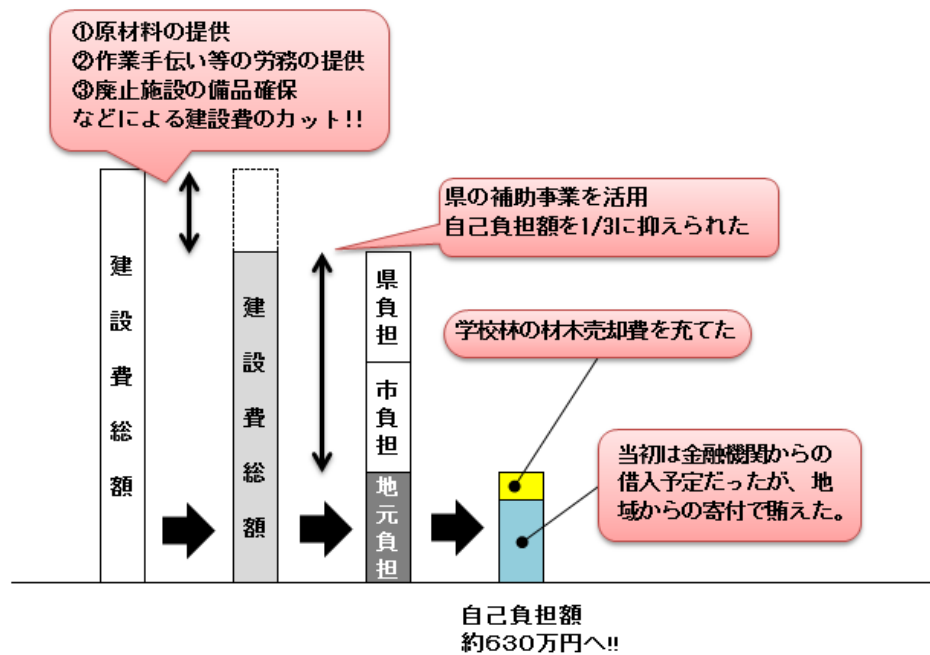
④ 廃止になった市の給食センターから使用可能な器具備品を調達できた。

- ▶ 廃止となった市の給食センターから、使用可能な調理設備や機械などを譲り受けることができ、これにより建設費を約150万円削減することができた。

⑤ 住民や地域団体から善意の寄付が集まった。

- ▶ 上記のような方法により、自己負担分を削減したが、不足分については金融機関からの借入れにより対応する予定であった。（借入金については自治会が主体で『山口きらめき道路サポート事業』に取り組み、その委託料から活動経費を差し引いた部分を返済に充てるように計画されていた。）

- 地区内の個人や団体から「自分たちの地域を良くする施設」ならと予想外に多額の寄付が集まり、一旦行っていた借入を全額返済することができた。



成果 渋川ふれあいの家を活用した様々な活動が始まった。

- 県内団体との交流や企業との連携、各種視察の受入れなど、これまで以上に交流事業の活性化につながった。
- 自治会や各種団体の集会の場として活用できるようになった。
- 地区の高齢者が集う「渋川夢サロン」の会場として定期的に活用できるようになり、地区住民の集える場ができた。
- 加工所では柏餅やこんにやくなどの加工品の製造を行い、道の駅等で販売。女性の活躍の場として利用されている。
- 「かあちゃん弁当」の製造と配達を行い、地区内の独居老人等の安否確認と訪問をしている。

【写真】
完成した渋川ふれあいの家



2. 取組のまとめ

☞ 県の補助事業を活用することができた。

- ・ 渋川地区では、地域づくりの行動計画である「地域の夢プラン」を策定し、住民一丸となって活動を行っている。この地域の夢プランの実現を図るための補助事業があったことから、この制度を活用することができた。

☞ 地域にあるものなどをうまく活用した。

- ・ 学校林の活用など気づきにくい「地域の資源」や給食センター備品の利用など、あるものをうまく活用して建設費を抑えることができた。

☞ 地区住民への周知と合意形成がきちんとできていた。

- ・ これまでも住民集会などを開き、渋川地区の未来を協議しており、今回の施設建設についても『地域として小学校をどうにか活用したい』という長年の夢が住民全体に浸透していたことが、材料や労務の提供、予想外の寄付へとつながった。

ミニ情報 ～県外の実践事例のご紹介～

1. ふるさと米供給協定の取組

(口羽のてごおする会：島根県邑南町口羽地区)

○取組の内容

- 関西地方の地区出身者団体を通じて、出身者や出身者の交友関係を通じて都市住民にふるさと（口羽地区）の米を販売する取組。都市住民のふるさとへの貢献や災害等有事の際の米確保という安心感が付加価値となっており、販売手数料が会の活動資金として活用されている。

○実施状況

- 平成20年から実施。経費を含め15,000円/30kgで販売。年々販売先が拡がり、平成22年度には2トンを超える地元米を供給することができており、あわせて農地の保全や景観を守ることに繋がっている。

◇詳しくは、以下URLをご覧ください。

（島根県庁ホームページ：元気が出るデータベース）

http://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/chiiki/chiikishinkokyogikai/5kendatabase/all_pref/shimane.data/3201062.pdf

2. はいたサポーターの取組

(ビジョン早田実行委員会：三重県尾鷲市早田地区)

○取組の内容

- 早田地区の情報を出身者などへ発信するため、インターネットを通じた情報発信を行っていたところ、地元出身者から、「早田で行っている活動にはなかなか参加できないが、何らかの形で応援したい」という声があがったことからこの取組を始めた。
- サポーターは一口5,000円で募集。サポーターにはお礼として年1回、地域で採れた魚や野菜を送り、あわせて地区で行われるイベントの開催案内などを送付。材料費や送料を除いた金額を地域づくりに活用している。

○実施状況

- 平成24年から実施。平成25年には80件弱の申込みがあり、年々増加している。得られた資金については、防災活動や高齢者の見守り活動などに活用されている。

やまぐち中山間地域づくり事例集
～活動資金の調達方法編～

山口県総合企画部中山間地域づくり推進課

TEL : 083-933-2549

E-MAIL : a11500@pref.yamaguchi.lg.jp